

専徳寺報

第422号

平成28年1月9日発行
浄土真宗本願寺派
専徳寺

〒740-0044 岩国市通津2764
☎0827-38-1124 FAX38-1000

<http://sentokuji-iwakuni.net/>

専徳寺

検索

ついたち礼拝「月のはじまりはお寺から」 2月1日(月)、3月1日(火) 午前9時より45分間

御正忌報恩講法要

ごしゅうきほうおんこうほうよう

御案内

ご開山・親鸞聖人のご遺徳を偲ぶ、最も大切な法座です。どなたも万障くりあわせてご参詣ください。

日時

1月20日(水)	昼1時半～3時半
21日(木)	昼1時半～3時半 夜7時半～9時
22日(金)	昼1時半～3時半 ※朝座なし

ご講師

20日………前住職

21日・22日…本願寺派布教使・輔教

溪 宏道 師(周南市)

◆お斎料は500円、地区割りは

20日：灘 地区(11時半～13時)

21日：通津地区(11時半～13時)

※22日のお斎はありません。

◆御伝鈔拝読：21日昼座と夜座

親鸞聖人のご生涯を曾孫の覚如上人が書きつづられた『御伝鈔』を拝読します。

◆大速夜と万灯会 21日夜座

聖人のご臨終を偲ぶ厳粛な法座です。

◆仏具回収：ご家庭でご不用となった仏具(お念珠、仏壇の荘厳具等)を回収いたします。

- 膝掛けをお持ちになると冷えなくて良いと思います。聖典、聴聞カードもお忘れ無く。
- 法話中の帳場受付はお休みです。宜しくご協力下さい。



【法句】(212) 弥陀のお慈悲を聞いてみりゃ 聞くより先のお助けよ 聞くに用事はさらになし 用事なければ聞くばかり (六連島 お軽)

如来・人・言葉 103

いつでも どこでも
どんなときでも

藤沢量正

私はかつて「浄土真宗の教えを、私たちが日常に用いていることばで表現すれば、どのようなものになるでしょうか」と尋ねられたことがあります。いろいろな言い方があると思いますが、私はそのとき「よろこびが感じられる身になること」と答えて、すぐに「いつでも どこでも どんなときでも」ということばを続けて加えたことでした。

条件が整い、自分の思いが満たされたときであれば、誰でもよろこぶことができます。しかし、孤独にさいなまれ、大事な人を亡くしてかなしみに沈んで、ともすれば絶望感を抱いているときなどは、人は決してよろこぶことができませぬ。しかし、そんなときであっても、よろこびを持つことができるかと教えてくれるのが浄土真宗の教えです。
伊藤左千夫さちおという歌人がいました。同じアララギ派の歌人であった斎藤茂吉もきちは、『左千夫歌集』の解説の中で、左千

夫は明治末期から大正初期にかけて親鸞聖人の教えに傾倒したと書いています。そのことはいろいろな歌にみるることができますが、その中に、

吾あがこころ暗くしあればみ仏の
光こほしみ止む時もなし

〔左千夫歌集〕五二頁、岩波文庫

という歌があります。彼は、悲しみや淋しさに心が閉ざされたとき、「み仏の光」を慕わずにはおれないという素朴な思いを表現していて、浄土真宗の教えに帰依しているすがたを示しているように思われます。

ところが一九〇九（明治四十二）年頃に、左千夫はとても悲しい事故に遭遇するのです。縁側に座っていたとき、池のほとりに遊んでいた幼子が足をすべらせて池に落ち、水死するという姿を目の前で見ただけです。彼は、娘を助けることができなかつたという自分の不注意を責めながら、慟哭どうこくの日々を送ったことでした。しかし日が経つにつれて、左千夫は娘は死んだのではない、みほとけに救われていったのだと、自らの胸に言い聞かせようとしたのでした。しかし、論理に

寺内だより

み仏にいだかれて〔葬儀動修〕

11月4日御往生

中町 橋本 幸枝様 (94)

喪主 松岡 祐子様

11月5日御往生

郷 里原 誠様 (100)

喪主 里原 経祥様

11月26日御往生

藤生 藤重ヤエ子様 (86)

喪主 藤重 裕一様

11月30日御往生

保津 森田ハルヨ様 (88)

喪主 森田 清美様

11月30日御往生

北町 多山 敦子様 (95)

喪主 多山 博通様

11月30日御往生

藤生 森本サワ子様 (79)

喪主 森本 公之様

12月10日御往生

南町 松井ユキコ様 (92)

喪主 松井 源輝様

12月12日御往生

火打岩 山本 芳子様 (98)

喪主 山本 正輝様

12月12日御往生

保津 赤崎 千秋様 (93)

喪主 赤崎 弘文様

12月20日御往生



人間の感情を説得する力はありません。すぐに愚痴が生まれ、悲しみの涙はとめどもなく流れるのでした。そのとき左千夫は、愚痴を言うなどという如来ではない、泣くなど論すみほとけでもない、この身このままがすでに如来のみ手にしつかりと抱かれてあると気づいたとき、

み仏に救はれありとおもひ得ば
嘆きは消えむ消えずともよし

〔左千夫歌集〕九〇頁

と詠ったのでありました。彼は愚痴を抱き悲しみの涙を流した中で、「有り難うございます、うれしゅうございます」と、みほとけの大悲の深さをよろこんだのでした。私たちは、よろこぶ場所を間違えてはならないのです。私が間違っても、決して間違うことのない如来の大悲の深さをよろこぶことです。私は、この歌の「消えずともよし」をみて、左千夫の信のよろこびを感じとることができたのであります。

親鸞聖人は「慶」という文字を数多く用いられ、よろこびとは何かを明確にされました。

『唯信鈔文意』には、

この信心をうるを慶喜といふなり。慶喜するひとは諸仏とひとしきひととなづく。慶はよろこぶといふ、信心をえてのちによるこぶなり。

〔註釈版聖典〕七二二頁

と明快に示しておられます。私たちは、よろこびは結果であつて、求めるべきものではなく与えられるものだということを、しっかりと知らねばならないのです。同じような内容で『一念多念文意』には、

慶はうべきことをえてのちによるこぶこころなり

〔同〕六八五頁

と説かれています。したがって信を得る身になれば、いつでも、どこでも、どんなときでもよろこびが得られる身になるということを明らかにされたのが、浄土真宗の教えです。

私たちは、報恩講のご縁に遇うたびに、親鸞聖人が説かれた教えをしつかりと聴聞し間違ひなくその教えを身につけることが何より大事なことだと、いつも心得たいものです。

〔ほくほく生きる―九十歳の法話―〕
(二〇一三年、本願寺出版) より)

本呂尾 伊原ヤス子様(98)
喪主 伊原 哲男様

●ご恩を偲び〔法事勤修〕11月5日〜12月〕

- 【通津】村重正 1、稲本松美 17、白田和男 25、竹原修 17、松井源輝 33、吉柴伸一 25・25、富井初枝 100、米本寿明 3、田名加秀昭 100、【保津】藤崎克己 25、畝挟雅子 1、山下誠 1、竹島進 3・7、水上博文 33・50、大崎英夫 7、【青木】広田尚志 1、品川淳三 3、【黒磯】左伊木満夫 1、岡林久美子 33・100、【藤生】白木規晴 3、【南岩国】山尾美津子 1、高山文子 3、【平田】田巻源七 3、【車町】土井光雄 7、【今津】白木厚栄 1、【広島】升元薫 100、【愛知】松本敬子 17、【横浜】山本俊彦 3。

●ご報告いたします

法要余香(永代経法要) 11月19・20日)

【講師】深野純一師。【参詣者】19日：昼座95名・夜座31名、20日：昼座68名。【お鉢米】上村由美子、津村昌広、半田正昭。【お供物】河村アサ子。

尊いご法縁でした。法要総代様、仏婦理事様もありがとうございました。

山口別院報恩講(11月26日)

【講師】阿部信畿師。【参加者】塩中幸枝、水上三千代、稲本順子

公開講座(12月8日)

【会場】山口別院。【講師】藤丸智雄師(本願寺総合研究所副所長) 【講題】寺院と公共性【参加者】住職

●ご報告いたします

仏婦研修旅行 (11月2日)

【場所】大河ドラマ館、萩世界遺産、光山寺
 【参加者】赤崎ヨネ、秋嶋幸子、稲本順子、畝狭百合子、大田貞子、大西紀久代、岡部美代子、賀屋幸子、賀屋尚子、河本多喜子、北本時枝、佐倉裕子、佐々井尚子、塩中幸枝、白田敬子、末広美代子、末広皓子、坪岡桂子、土井和枝、土井トシコ、中本絹代、深井絹代、藤中康子、水上三千代、村岡房江、村岡世志子、村上黎子、村上知津江、村河久美子、村中久子、村中恵子、森郁子、米本詔子、住職、坊守、弘中可南(二女) (計36名)



“萩反射炉にて”

「光山寺では武田晋副住職より、もう一つの花燃ゆ」と題してお話をいただきました。大河ドラマ『花燃ゆ』で登場した杉滝(文)の母、檀ふみや楫取寿(文の姉、優香)の念仏生活についてお聴聞しました。」



専徳寺納骨堂・永代供養墓受付中(パンフレットが本堂にあります)



“記念撮影”

専徳寺倶楽部冬の集い (12月20日)

今年も多くの方が参加くださいました。煤払や溝掃除、また幼稚園の経本を運び出しました。有り難うございました。

【参加者】浅井佐、岡崎福美、岡林悦香、冲原政裕、小方基史、吉柴伸一、白田憲光、白田直則、高林宏明、多山博通、田中稔、半田正昭、半田健二、藤重秀男、増本真一、増本英一郎、村中紀一郎、森田幸一(懇親会より)松重吉英、吉柴恵子、村中久子、増本美佐江、森田京子

●ご案内いたします

専徳寺倶楽部研修親睦旅行

左記の日程で旅行をいたします。専徳寺有縁の男性ならどなたでも参加できます。どうぞご参加ください。

【日時】2月14日(日)

【費用】五千元

【行程】7..00 出発

11..30 灘菊酒造(工場見学・昼食)

13..00 亀山本徳寺参拝

14..15 姫路城

16..15 出発

21..00 到着予定

【申し込み】

2月1日までに、専徳寺までご連絡ください。

TEL 0827-381124

FAX 0827-3811000



“本徳寺”



“姫路城”

訂正

前回の寺報(421号)の法事勤修に、【市内】「小村謙次郎様3」の記載洩れがありました。お詫びして訂正いたします。